

(報道資料)

## インドネシアにおける農地管理の高度化を目指し インドネシア航空宇宙研究所(LAPAN)と実証実験を開始

株式会社パスコ（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：島村秀樹、以下：パスコ）は、2018年10月16日にインドネシア航空宇宙研究所（LAPAN：Lambaga Penerbangan dan Antariksa Nasional）<sup>(※1)</sup>と衛星データ活用プラットフォームシステム（ReDaNo システム）<sup>(※2)</sup>の構築に関する協力合意を締結した活動の一環として、この度、インドネシアにおける地球観測衛星データの活用に関する実証実験を開始致します。

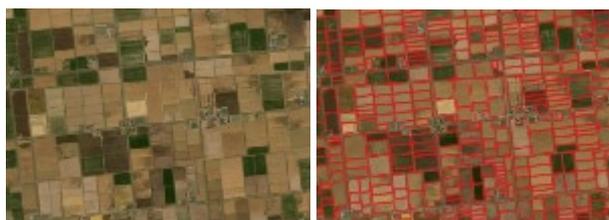
インドネシアでは、農地管理とともに固定資産税の適正化を目的とした圃場（ほじょう：農作物を育てる場所、農地）の広さや作付け状況の情報収集について、その正確性に課題を抱えています。

特にインドネシアでは、圃場の6割以上が山間部に位置することや、露地養殖が盛んに行われており、衛星画像や航空写真からの目視判読に限界がありました。



(左)インドネシアの田園風景／(右)インドネシアの養殖場

本実証実験では、異なる分解能を持つ地球観測衛星から、パスコの人工知能（AI）技術を活用して、効率的かつ自動的に農地ポリゴンを抽出し、圃場面積や場所を推定し、定期的にモニタリング可能な技術を確認することを目的としています。なお、AI技術に関しては、日本の環境で実績のある自動抽出アルゴリズムをインドネシアの環境に対応すべくチューニングを行い、精度を高める計画です。



パスコのAI技術による圃場抽出例

(左)衛星画像

(右)赤い線がAIを活用した圃場抽出結果

本実証実験で得られた成果は、インドネシアの農地マップの更新、水路整備の適正地選定、農地管理の向上支援等への活用を目指します。

(※1) LAPAN は、1963年に設立された東南アジアでも歴史ある航空宇宙機関で、インドネシア政府および同国内へ衛星画像の提供を行っている。



パスコ と LAPAN で共同開催したインドネシアにおける日本地球観測衛星画像の利用促進に関するワークショップの様子

(2019年10月30日 ジャカルタにて)

(※2) ReDaNo システムとは、東南アジア地域における災害、海面上昇、違法操業等の情報をニアリアルタイムで観測し、インドネシア政府および近隣諸国へ、地球観測衛星画像を用いた情報提供を行う事を目的として LAPAN が構築を進めているデータプラットフォームシステム。

## ■ 関連情報

<2018年10月17日 報道発表>

東南アジア地域の地球観測衛星利用を促進

インドネシア航空宇宙研究所 (LAPAN) との協力合意書を締結

<https://www.pasco.co.jp/press/2018/download/PPR20181017J.pdf>

## ■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社パスコ

(報道機関) 広報部

<https://www.pasco.co.jp/>

TEL : 03-6412-2800

プレスリリースの内容は発表時のものです